

沖縄スポーツ産業クラスターの形成に向けて

政府の動き

- 「日本再興戦略2016」における名目GDP600兆円に向けた「官民戦略プロジェクト10」にて、スポーツの成長産業化を提案
- 具体的目標として、KPI（数値目標）を
 スポーツ市場規模 5.5兆円（2015）→**15兆円（2025）**
 スポーツ実施率の向上 40.4%（2015）→**65%（2021）**
- 具体的施策として、①スタジアム・アリーナ改革、②スポーツコンテンツホルダーの経営力強化、新ビジネス創出の推進、③スポーツ分野の産業競争力強化

沖縄の現状

- ①プロ・アマスポーツキャンプ（合宿）のメッカ
- ②県出身トップアスリート（宮里藍選手等）の活躍
- ③プロスポーツクラブの誕生
 （琉球ゴールデンキングス、FC琉球、沖縄SV、琉球コラソン、ヴィクサーレ沖縄FCナビタ等）
- ④トップアスリート・トレーナーの移住、スポーツベンチャー等の胎動
- ⑤スポーツ関連事業者の多さ



沖縄スポーツ産業クラスターの形成 ～クラスター手法によるスポーツ産業振興～

沖縄のポテンシャル

- ①温暖な気候
- ②海洋性リゾート地としてのブランド
- ③成長著しいアジアとの近接性（東アジアの中心）
- ④比較的ハイスペックな施設が存在
- ⑤多様な地域資源（海洋亜熱帯性生物資源の宝庫）

ポテンシャル・国内外のスポーツへの関心の高まりを受け、五つの戦略でスポーツ産業クラスターを目指す

戦略1：県内スポーツ関連事業者、産学官金のネットワーク化

- シェルパ会合（異業種交流会）、SNS活用
- アドバイザーボード

戦略2：国内外から沖縄に誘引力を高める核づくり

- スポーツサイエンスの世界的な拠点
- スポーツ経営人材育成の拠点

戦略3：スマート・ベンチャーの創出促進とサービス高度化

- プロフィットセンター化、ワンストップサービス化

戦略4：オープンイノベーションを誘発するイベント（スポーツエキスポ）の開催

- Sports Industry in South Island Okinawa

戦略5：民間主導の自立的発展を目指す

- クラスター推進体制のあり方検討



クラスターの核づくりとして目指す、スポーツサイエンスパーク イメージ図

スポーツイベントの観光等による経済効果

沖縄県内における2016年プロ野球春季キャンプの経済効果は、100億400万円と過去最高を記録（りゅうぎん総合研究所発表）

東アジアにおけるスポーツビッグイベント開催による注目度の高まり

⇒ヒト、カネ、モノ、チエを沖縄に呼び込むチャンス到来！

- 2018 平昌冬季オリンピック・パラリンピック(韓)
- 2019 ラグビーワールドカップ(日)
- 2020 東京オリンピック・パラリンピック(日)
- 2021 ワールドマスターズゲームズ(日本)
- 2022 北京冬季オリンピック・パラリンピック(中)